

第Ⅱ部 第一次事前評価調査報告書

目 次

写 真	45
第1章 事前評価調査団の概要	47
1 - 1 派遣の経緯と目的	47
1 - 2 団員構成	47
1 - 3 調査日程	48
1 - 4 主要面談者	49
第2章 調査結果の要約	50
2 - 1 プロジェクトの教育分野の計画における位置付けについて	50
2 - 2 プロジェクトのフレームワーク	50
2 - 3 プロジェクトの実施体制	50
2 - 4 プロジェクト期間	51
2 - 5 教育アドバイザー専門家の役割	51
2 - 6 他ドナーの協力	51
2 - 7 その他の留意事項	51
2 - 8 今後のスケジュール	52
第3章 各調査項目報告	53
3 - 1 プロジェクトの位置付け	53
3 - 2 プロジェクトのフレームワーク	54
3 - 3 プロジェクトの実施体制	59
3 - 4 プロジェクトへの教育アドバイザーの役割	65
3 - 5 関係機関との意見交換	65
3 - 6 プロジェクトの総合的実施妥当性	66
第4章 他ドナーの動き	69
4 - 1 概要	69
4 - 2 活動内容	69
4 - 3 活動の展開	70
第5章 教員養成学校訪問	71
5 - 1 概要	71
5 - 2 新規教員養成と現職教員再訓練の連携及び教員養成校と現場の小学校との連携	71
5 - 3 施設等	71
5 - 4 今後の課題	71

第6章 今後の予定	73
6 - 1 調査団の人数	73
6 - 2 調査団の日程	73
6 - 3 ベースライン調査の詳細（案）	74
付 属 資 料	77
1. ミニッツ（Minutes of Meetings）	79
2. 教育省教員養成局予算資料	94
3. 収集資料リスト	98

写 真
CPC 表敬



ドンカムサン教員養成学校視察



ミニッツ署名



第1章 事前評価調査団の概要

1-1 派遣の経緯と目的

ラオスにおいては、15歳以上の成人識字率が65.6%（2001）*、初等教育の純就学率が81%（2000 - 2001）*と周辺諸国と比べても低水準にある。ラオス政府は、2001年3月に第五次国家社会経済開発計画（2001 - 2005年）を発表し、その中で主な目標の一つとして「全ての分野における人材開発を促進する」を挙げている。また、現在策定中の「国家貧困削減プログラム（National Poverty Eradication Plan：NPEP）」においては、教育セクターの解決すべき課題として、①公平なアクセスの改善、②教育の質と妥当性（relevance）の改善、③教育行政マネジメントの強化が挙げられている。

このようなラオスの状況に対し、JICAは、1999年度から教育アドバイザーを派遣（現在2代目派遣中）しているほか、1998年度から毎年、理数科のカリキュラム・教材開発や理数科ワークショップ開催に係る短期専門家を派遣している。また、2002年度からは国別研修（旧：国別特設研修）「ラオス初等中等理数科教育コース」が5年間の予定で開始され、教員養成校の指導教官等を対象とした研修を実施している。しかしながら、これらの協力に係る全体計画や戦略は、これまで十分に整理されておらず、案件間の連携も十分に図られてこなかった。

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
教育アドバイザー			—————				—————		
理数科カリキュラム開発	—	—							
理数科ワークショップ			—	—		—			
初等中等理数科国別特設研修						—————			

今般、国別研修と短期専門家派遣によるワークショップとを組み合わせることで関係者の合意が得られたことから、ラオスの理数科教育の実状やニーズを再確認の上、今後の同分野での協力に係る中期的な方針を整理し、本プロジェクトのフレームワーク（目標や成果等）を策定し、ラオス側と合意するとともに、本プロジェクトのR/D（案）について先方関係者と協議・合意することを目的として、本調査団を派遣した。

*UNDP Human Development Report 2003 より

1-2 団員構成

担当分野	所属先	氏名
総括	JICA 社会開発協力部第一課	佐久間 潤
教員研修制度	鳴門教育大学	齋藤 昇
教員研修計画	鳴門教育大学	跡部 紘三
協力企画	JICA 社会開発協力部第一課	田中 真紀

1 - 3 調査日程

2003年8月31日（日）～9月7日（日）（8日間）

	月日		工程	面会者
1	8/31	日	バンコクへ移動	
2	9/1	月	09:30 ビエンチャン着	
			13:30 計画協力委員会表敬	副局長 Mr.KEOMANY Latsamy
			14:30 大使館、JICA 事務所、教育アドバイザーとの打ち合わせ	平山書記官、池田次長、衣斐所員、沢田専門家
3	9/2	火	09:00 教育省表敬	副大臣 Ms.Bounpheng MOUNPHOXAY
			10:00 教育省教員養成局との打ち合わせ	局長 Ms.Sengdeuane LACHANTHABOUN
			13:00 教育局計画協力委員会表敬	局長 Mr.Lytou BOUAPAO
			13:30 教育アドバイザー（沢田専門家）との打ち合わせ	沢田専門家
4	9/3	水	08:30 教育省一般教育局との打ち合わせ	局長 Mr.Khaamhoung SACKLOKHAM
			10:30 EQIP 事務局との打ち合わせ	教員養成局副局長 Mr.LYFOURG 他
			13:00 ドンカムサン教員養成学校訪問	Mr. Phone Oasit LUANGLITSALDA
			15:30 教育省教員養成局との打ち合わせ	局長 Ms.Sengdeuane LACHANTHABOUN
5	9/4	木	08:30 教育省教員養成局との打ち合わせ	局長 Ms.Sengdeuane LACHANTHABOUN
			午後 ミニッツ作成	
6	9/5	金	11:00 ミニッツ署名	局長 Ms.Sengdeuane LACHANTHABOUN
			16:00 日本大使館へ報告	平山書記官
			17:00 JICA へ報告	池田次長、衣斐所員、沢田専門家
7	9/6	土	10:30 ビエンチャン発	
8	9/7	日	バンコクから移動*	

*佐久間はバンコクでの成人識字会議出席のため、9/9 帰国
田中は引き続きネパールへ出張のため、9/14 帰国

1 - 4 主要面談者

組 織 名	役 職	氏 名
Committee for Planning and Cooperation, Department of International Economic Cooperation	Deputy Director General	Mr.KEOMANY Latsamy
Ministry of Education	Vice Minister	Ms.Bounpheng MOUNPHOXAY
Department of Planning and International Cooperation, MOE	Director General	Mr.Lytou BOUAPAO
Department of Teacher Training, MOE	Director General	Ms.Sengdeuane LACHANTHABOUN
Department of Teacher Training, MOE	Officer	Mr.Maaly VORABOUTH
Department of General Education, MOE	Director General	Mr.Khaamhoung SACKLOKHAM
Department of General Education, MOE	Head of Primary Education Division	Mr.Khaun XAYSANAVONGXAY
Department of General Education, MOE	Deputy head of Primary Division	Mr.Mikhob KINGKITTISACK
Department of General Education, MOE	Deputy head of Secondary Division	Mr.Boonthom KHENAPHAOOM
EQIP II Project Working Group	Team Leader	Ph.D. Bill Vistarini
EQIP II Project Working Group	Deputy Team Leader	Mr.Bounthaavy INISISIENMAY
EQIP II Project Working Group	Deputy Director of DTT	Mr.LYFOURG
EQIP II Project Working Group	Team Leader of the TTEST Project	Mr.John BAILEY
Dongkhamxang TTS	Director	Mr. Phone Oasit LUANGLITSALDA
Dongkhamxang TTS	Deputy Director	Ms. Vila Sengsavang
Dongkhamxang TTS	Deputy Director	Mr. Somphone CHANTAMALY
日本大使館	一等書記官	平山 周作
Teacher Training DePArment, MOE	教育アドバイザー (専門家)	沢田 誠二
JICA 事務所	所長	西脇 英隆
JICA 事務所	次長	池田 修一
JICA 事務所	所員	衣斐 友美

第2章 調査結果の要約

調査団は9月1日から同6日まで現地に滞在し、教育省副大臣及び計画協力委員会（Committee for Planning and Cooperation, Department of International Economic Cooperation : CPC）、国際経済協力局を表敬訪問した他、教育省国際協力局長、教員養成局長、一般教育局長等並びに教育省に派遣中の沢田専門家（教育アドバイザー）と、本件フレームワークや協力の概要等に関する協議を実施した。また、現在スウェーデン国際開発庁（Swedish International Development Cooperation Agency : SIDA）及びアジア開発銀行（Asian Development Bank : ADB）が中心となって実施準備を行っている「教育の質向上プロジェクト・フェーズII（Education Quality Improvement Project Phase II : EQIP II）」の関係者を訪問し、同プロジェクトの概要を聴取するとともに、本件協力に関する情報の共有化を行った。さらに、教員養成校の現状を把握すべく、ビエンチャン近郊のドンカムサン教員養成学校を視察した。これらの調査結果の要約は以下のとおりである。

2 - 1 プロジェクトの教育分野の計画における位置付けについて

ラオス政府は現在策定中のNPEPにおいて、教育分野の優先課題として教育機会（アクセス）の拡大、質の改善及び教育マネージメント強化の3点を挙げており、本協力は、質の改善に資する支援として位置付けられる。特に、理科及び数学は、ラオスの教育現場において生徒と教員の双方から指導・学習が難しい科目として一般に認識されており、理科及び数学の指導（教員養成）に焦点をあてた本協力の必要性及び妥当性は高いことが確認された。

2 - 2 プロジェクトのフレームワーク

本プロジェクトのフレームワークについては、付属資料1のミニッツのとおり、国別研修、ラオス国内でのワークショップ及び国内研修を主要なプロジェクトのコンポーネントとし、これらを有機的に関連付けた協力とすることで先方と合意した。また、本プロジェクトの目標は、あくまでも新規教員の養成（プレサービス・トレーニング）を担当する教員養成短期大学（Teachers Training College : TTC）と教員養成学校（Teachers Training School : TTS）の教員の能力向上とし、現職教員の再研修（インサービス・トレーニング）関連の協力は、本プロジェクトの対象外とした。

ただし、両者はいわば車の両輪であり、本プロジェクトの成果は、当然ながら現職教員研修の質向上にも資することが期待される。このため、プロジェクトの活動には含めないものの、教育アドバイザー専門家が、インサービス・トレーニング関連の協力として、指導主事（Pedagogical Advisor : PA）や現場の教員を対象とした国内研修等を別途企画、実施するものとし、プロジェクトはこれらの研修等とも密接な連携を図りながら進めて行くことで合意した。プロジェクトの概念図は別添1のとおり。

2 - 3 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトのカウンターパート機関は教育省教員養成局であるが、インサービス・トレーニングを所管する一般教育局とも連携を図りながら、活動を実施して行く必要があることを確認した。なお、教員養成局の人員体制は極めて脆弱であることが今回の調査で判明したことから、本プロジェクトの円滑な実施を確保するためには、各コンポーネントの活動をラオス側カウンターパートとともに企画立案、実施、モニタリング及びフォローアップする長期専門家（研修計画/業務調整）を派遣することが強く望まれる。

加えて、プロジェクトの実施に際しては、上記専門家、教育アドバイザー専門家及びカウンターパートによるプロジェクト管理ユニット（Project Management Unit：PMU）を組織し（必要に応じて、地方での活動の支援、モニタリング及びフォローアップ等を目的とした現地コンサルタント等の活用も検討）、ラオス側及び日本側が一体となって活動を推進して行くことが適切であるという認識で双方が一致した。

2 - 4 プロジェクト期間

プロジェクトの期間については、今後詳細を検討するものの、基本的には2004年4月からの4年間とする。本年10月から12月にかけて実施が予定されている今年度の国別研修については、その内容や対象者が本プロジェクトのフレームワークとは別途すでに決定していることから、本プロジェクトの中には含めないものとする。

2 - 5 教育アドバイザー専門家の役割

別添2の役割分担表のとおり、本プロジェクトの各コンポーネントの実施にあたっての教育アドバイザー専門家の役割を明確にした。国別研修及びワークショップに関しては、その実施の側面的な支援を、国内研修に関しては、その企画立案から実施までを同専門家が中心となって行うことで基本的な合意を得た。また、上述のとおり、教育アドバイザー専門家は、本プロジェクトとの連携を保ちつつ、指導主事や学校の教員等を対象としたインサービス・トレーニング関連の国内研修等を実施する。

2 - 6 他ドナーの協力

基礎教育分野における大規模なプロジェクトとして、EQIP IIが2002年から2007年の予定で開始されている（ただし予定は遅れており、現在も準備段階）。プロジェクト予算は全体で約3,700万ドルであり、ADB及びSIDAが支援している。

このプロジェクトは、アクセスの拡大、質の向上及び教育行政の強化という三つの課題のすべてを包含する総合的なプロジェクトである。同プロジェクトの中で、特に教員に関連する協力はTTEST（Teacher Training Enhancement and Status of Teachers Project）と呼ばれ、TTC/TTS教員の能力向上やTTC/TTSのカリキュラムや教材の改訂、さらには同施設の整備といった内容が含まれている。このため、同プロジェクト関係者との協議の際に協力内容の重複の有無について当方から質問したところ、TTESTはTTC/TTCのマクロ的な改善（一般的な指導法等）を目指すものであり、理数科目の具体的な内容改善に重点を置く本プロジェクトと活動内容が重複する恐れはない、との説明があった。しかしながら、例えばTTC/TTSのカリキュラム等が変更されることになれば、本プロジェクトの活動への影響も考えられることから、今後の具体的な活動についてはそれらの点を十分留意していく必要がある。同会議において、今後とも相互に情報共有を進めていくことの重要性を確認した。

2 - 7 その他の留意事項

ラオスでは教育分野開発予算の大部分を外国援助に頼っている（昨年度：2002 - 2003の開発予算240億キップのうち220億キップが外国援助による）といった事情もあり、プロジェクトに対するラオス側関係者のオーナーシップやコミットメントを得ることは容易なことではなく、ましてや協力終了後の自立発展性を確保することは大きな課題である。こういった現状に対処するためには、プロジェクト期間を通じて、その実施の意義をカウンターパートが十分に理解するよう絶えず働きかけ、

当事者意識を醸成していくことが肝要である。また、ワークショップや国内研修の費用分担についても、徐々にラオス側の負担割合を増やしていくといった工夫を今後具体的に検討する必要がある。なお、教員養成局長からは、本プロジェクト実施のために、なるべく多くの予算措置ができるよう努力したい旨の発言があった。

2 - 8 今後のスケジュール

以下のような目的のため、本年12月を目途に短期専門家ないしは第二次事前評価調査団を派遣する。

- (1) 本プロジェクトの評価方法/項目の詳細に関する検討
- (2) 同評価方法に基づく TTC/TTS の現況把握調査の実施
- (3) TTC/TTS、教員教育・運営開発センター (Teacher Education and Administration Development Center : TESDC) に対するプロジェクト説明会の開催

なお、R/D の署名については、2004年2月の実施を目途とする。

第3章 各調査項目報告

3-1 プロジェクトの位置付け

3-1-1 ラオスにおける教育分野計画中のプロジェクトの位置付け

ラオス政府は、2001年3月に第五次国家社会経済開発計画（2001-2005年）を発表し、その中で主な目標の一つとして「全ての分野における人材開発を促進する」を挙げている。また、現在策定中のNPEPにおいては、教育セクターの解決すべき課題として教育機会（アクセス）の改善、教育の質の改善、教育行政マネジメントの強化が挙げられている。

本プロジェクトは、教員養成に携わる理数科教官の指導能力向上を目標としており、教育の質の改善に資するものであり、ラオスの教育分野の計画に見合う協力であると言える。

国家貧困撲滅計画（National Poverty Eradication Plan : NPEP）

1. 教育機会（アクセス）の改善

長期目標1：2015年までにEFA（Education for All）を達成する。

短期目標：(1) 特に貧困な47郡において、初等教育修了へのアクセスを増加させる。複式学級による教育を促進する。入学すべき年齢に入学することを支援し、女子や少数民族児童の入学を支援する。遠隔地と少数民族が暮らす地域の教員に対する特別研修を提供する。

(2) 成人女性の非識字率を減少させ、職業教育を促進する。フォーマル教育及びノンフォーマル教育の手法を利用し、コミュニティ・ラーニング・センター（CLC）を改善する。

長期目標2：経済成長を促して地域格差を減少させ、貧困を撲滅する。

短期目標：(1) 特に貧困な47郡において、初等教育修了率を増加させる。留年率とドロップアウト率による内部効率を改善し、選択した学校で補修クラスを開講する。

(2) 貧困な47郡と国の主要な指標の差を減少させる。

(3) 初等教育後の教育を拡大する。初等及び初級中等におけるクラスター制度を開発する。貧困な地区において職業学校を開設する。教育分野における民間からの参画を支援する。

2. 教育の質の改善

長期目標1：全てのレベルにおいて、教育の質が国際水準に達する。

短期目標：(1) 能力のある教員が貧困地区の学校に配置されることを確保する。特に初等1年生に対する複数の言語での指導法を紹介し、複式学級の指導法についてもトレーニングを行う。

(2) 学校の状況と教材へのアクセスを改善する。学校を修繕し、教科書の有効性を確保する。貧困層のニーズに合う指導内容を確保する。貧困層が最も困難であると感じている視点、また恩恵を受ける側の視点からカリキュラムに焦点をあてる。地域のサポートを受けた指導教材を供給する。教育と労働市場の連携を強化する。

- (3) 規則を改善し、監察のレベルを向上させる。小規模学校や不完全学校に追加の教員を供給するシステムを開発し、職員配置を改善し、学校に対して組織的なサポートを行うことにより、監察システムを改善する

3. 教育行政マネージメントの強化

長期目標 1：貧困予防の制度開発とセクターの分権化マネージメントのための組織開発を持続させる。

短期目標：(1) 教育セクターにおける中央と地方のマネージメントと執行の改革を行う。全てのレベルでの教育において、計画の能力を強化する。

(2) 学校と組織のマネージメント強化のため、訓練された行政官と学校長を任命する。

(3) 教員の配置を改善する。教員養成の候補者選抜を改善し、常勤教員と非常勤教員の双方に対等に割り当て、現在の割り当てシステムを改善する。

(4) 学校におけるコミュニティ参加を促進する。全ての教育レベルにおいて、生徒と親のアソシエーション設立を促進する。

長期目標 2：教育セクターの長期目標の達成を可能にするために十分なリソースを割り当てる。

短期目標：(1) 教育セクターのリソースの使用を改善する。リカレントコストとキャピタルコストの支出バランスをとり、セクターワイドな視点でドナーのプロジェクトを計画する。

(2) 学校と組織の予算の流れを改善する。省、郡レベルでの予算管理の改善と教育開発基金の設立。

また、本プロジェクトでは理数科教育に焦点を当てているが、理数科は、ラオスにおいて指導・学習が難しい科目として一般に認識されていること、また、推察、観察、実証を通して生徒に考える力をつけさせるために有効な教科であることから、理数科教育を改善することは、教育の質を高めることに有効であると考えられる。

3 - 1 - 2 JICA の国別事業実施計画中のプロジェクトの位置付け

JICA の国別事業実施計画では、人造り、ベーシック・ヒューマン・ニーズ (Basic uman Needs : BHN) 支援 (環境を含む)、農林業、インフラ整備・エネルギー開発の 4 分野が援助重点分野として挙げられており、BHN 支援の中に、「初等・中等教育の普及」が挙げられている。本プロジェクトは初等・中等教育の質の改善に資するものであり、JICA の国別事業実施計画に見合う協力であると言える。

3 - 2 プロジェクトのフレームワーク

3 - 2 - 1 コンポーネントと役割

本プロジェクトは、以下 (1) ~ (3) の三つのコンポーネントから成っており、それぞれの参加者及び関係は以下のとおり。

(1) 国別研修 (Training in Japan : TIJ)

日本 (鳴門教育大学) で 10 月~12 月頃に 2 か月間実施する研修であり、参加者は、TTC/TTS の教官、TESDC と教員養成局の関係者 (以下、「プレサース関係者」) で、以下 (2) ワークショッ

ブ参加者の中から、ラオス側と短期専門家がパフォーマンスの評価等により決定する。ラオスの子どもたちが理解しにくいトピックについての教員用指導書を作成する（毎年いくつかのトピックを取り上げ、プロジェクト終了時にある程度まとまったものに仕上げる）。

（２） ワークショップ（Workshop : WS）

ラオスで7月～8月頃に実施する研修であり、参加者はプレサービス関係者である。TIJの参加者が講師となり、日本で得た知識を参加者に広める。短期専門家が派遣され、講師の指導・評価についてアドバイスをする。講師（TIJの参加者）は、WSを通して指導・評価力を身につけ、以下（３）において独自に実施できるようになることを目的とする。TIJで作成した教員用指導書をWSで使用し、参加者からラオスの現状に合っているか等についてコメントを得てリバイズする。

1か月の短期専門家派遣期間中、2か所でWSを実施する。

（３） 国内研修（In-Country Training : ICT）

上記WSの結果を踏まえた上でラオス側が独自に行う研修であり、参加者はプレサービス関係者である。WSと同じく、TIJの参加者が講師となる。同じ内容のWSに参加していない人が参加する。WSの結果リバイズされた教員用指導書を使用する。ICTの実施には、教育アドバイザー専門家が支援を行う。

本プロジェクトでは、TIJ受講生がラオスの理数科教育界のリーダーとして活躍し、自身の所属校やWSにおいて、TIJで学んだ内容を広く普及することを狙いとしており、研修内容の普及・定着が有機的に関連付けられている。

3 - 2 - 2 フレームワーク

本プロジェクトのフレームワークは以下のとおり（PDMは別添3）。

プロジェクト・フレームワーク	
上位目標	理数科分野における教員養成トレーニングが改善される。
プロジェクト目標	TTC/TTSの理数科教官の質が改善される。
成果	(1) TTC/TTSの教官がラオスの教育の現状を理解し、その状況を改善するための自らの役割を理解する。 (2) TTC/TTSにおける理数科教員養成用の教員用指導書が整備され、活用・普及する。 (3) TTC/TTS教官が理数科の質の高い授業の実施方法を理解する。 (4) 国別研修受講生が中心となり、WS、国内研修を実施して評価できるようになる。
活動	(1-1)【国別研修】受講生が、日本の学校制度・教育制度・教員研修等の諸制度や現状の概要の講義を受ける。

- (1-2) 【国別研修】受講生が、日本の現状と比較し、ラオスの教育の現状を見直し解決すべき問題点を明らかにする。
- (1-3) 【WS、国内研修】国別研修受講生が講師となり、日本の教育制度、概要を紹介する。
- (1-4) 【WS、国内研修】受講生がラオスの教育の現状を見直し解決すべき問題点を明らかにする。
- (1-5) 【WS】短期専門家が日本の教育現場の現状等を紹介する。
- (2-1) 【国別研修、WS、国内研修】ラオスの TTC/TTS の学生や小中学校の生徒が理解しにくいトピックを明らかにする。
- (2-2) 【国別研修】上記のトピックについての、日本の指導法／教材についての講義・実習を行う。
- (2-3) 【国別研修】上記の講義を受け、ラオスの現状に合う教員用指導書を作成する。
- (2-4) 【WS、国内研修】国別研修受講生が講師となり、教員用指導書を利用して授業を行う。
- (3-1) 【国別研修】日本の小・中学校で観察実習を行う。
- (3-2) 【国別研修】日本で教科指導法に関する講義や実習を行う。
- (3-3) 【国別研修】日本の授業を参考に、ラオスの現状に合う理数科授業を設計する。
- (3-4) 【WS、国内研修】国別研修受講生が講師となり、日本で設計した授業を紹介する。
- (3-5) 【WS、国内研修】受講生が授業の設計を行う。
- (3-6) 【WS、国内研修】受講生が、小中学校で模擬授業をし、国別研修受講生が指導を行う。
- (3-7) 【WS】短期専門家が国別研修受講生の指導を評価する。
- (4-1) 【国別研修】評価手法を講義・実習する。
- (4-2) 【WS、国内研修】受講生の模擬授業を、国別研修受講生が評価する。
- (4-3) 【WS】国別研修受講生の評価を、短期専門家が指導／評価する。

3 - 2 - 3 プロジェクトのターゲット

上記のフレームワークにより、本プロジェクトのターゲットは、理数科のプレサービス関係者、すなわち、TTC/TTS の教官と TESDC、教育省教員養成局 (Department of Teacher Training, MOE : DTT) の関係者とした。それぞれ関係者の人数は以下のとおり。

機 関 名	人 数
TTC 理数科教官	114
TTS 理数科教官	25
TESDC 関係者	6
DTT 関係者	9
合 計	154

本プロジェクトが、インサービス・トレーニング（現職教員の再訓練）ではなく、プレサービス・トレーニング（教員養成）にターゲットを絞った理由としては、上記のとおり、プレサービス・トレーニングに携わる人材がラオス全土で 150 名程度であるため、本プロジェクトの期間中に、その全員が直接裨益でき、プロジェクトの成果が得られやすいことがあげられる。

一方、ラオス側より、プレサービス関係者に限らずインサービス関係者も含めてほしい旨の要請があった。検討の結果、本プロジェクトとしては上記理由によりプレサービス関係者にターゲットを絞るが、別途、教員養成局で活動中の教育アドバイザーがインサービス関係者への研修を実施することとし、JICA が実施する協力プログラムとしては、プレサービスとインサービスの両方を含む教員養成について取り組んでいくこととした。

なお、本プロジェクトの枠組みの中においても、インサービス関係者（例えば PA）を有効に活用することを検討することとした（例えば WS に数名を参加させ、現職教員指導経験から、教員用指導書のコメントを得る等）。

3 - 2 - 4 プロジェクトのモニタリングと評価

- (1) 各 TIJ、WS、ICT の後にアンケートやモニタリングシートを用いてモニタリングする他、WS の 1 日目に研究会（review meeting）を開催し、TIJ の参加者に、TIJ で得た知識の普及活動について報告させることを義務付け、各自の活動をモニタリングする。
- (2) プロジェクトの前後に、TTC/TTS においてベースライン調査（授業観察）を行うことにより、プロジェクトを評価する。詳細な評価方法の決定とベースライン調査を行うため、本年末を目途に、第二次事前評価調査団の派遣を検討する。

3 - 2 - 5 プロジェクトの期間

2004 年 4 月より 4 年間とする。

本年度の国別研修については、従来の枠組みで行われることとし、本プロジェクトには含まないこととする。ワークショップは、前年度の国別研修のフォローアップの意味と、当該年度の国別研修参加者を決定する場でもあることから、2004 年度のワークショップ、国内研修はプロジェクトに含むこととする。

年 度	2003	2004	2005	2006	2007
国別研修	—	—	—	—	
ワークショップ		—	—	—	—
国内研修				

↑
プロジェクト開始

ワークショップと国内研修は、国別研修の知識を広める働きを果たす。上図の楕円は、例えば 2004 年の国別研修の内容が、2005 年のワークショップと国内研修で広められるということを示している。

3 - 2 - 6 プロジェクトの名称

ラオス側と調査団双方において、プロジェクトの名称を「Project for improving Science and Mathematics Teacher Training」とすることが確認された。なお、日本語名を「理数科教員養成強化プ

プロジェクト」とすることについては、調査団派遣前の対処方針会議において関係者間で合意が得られた。

3 - 2 - 7 プロジェクトの詳細

(1) 各コンポーネントの内容

【TIJ】

毎年、10月～12月頃に鳴門教育大学において約9週間実施される。毎年10名が参加する。

- 1 週目～2 週目 日本文化・歴史・日本語講義等（大阪センターにて）
- 3 週目 日本教育制度、学校制度、教員養成制度・カリキュラム、教員研修制度、IT教育等の講義
- 4 週目～6 週目 （分野別）日本の小・中学校のカリキュラム、教育課題、教科書内容、教材・教具の活用・開発方法、指導方法、評価方法等の講義・演習。ラオスの教科書に基づいた教員用指導書を作成し、模擬授業を実施する。
- 7 週目 日本の小・中学校訪問・視察
- 8 週目 研修旅行
- 9 週目 レポート作成、報告会実施

【WS】

毎年7月～8月頃に1か月間、日本から短期専門家（数学、物理、化学、生物各1名ずつ）を派遣する。1か所におけるWSは2週間とし、2か所で実施する。1か所における予定は以下のとおり。全国2～3か所程度のTTCを会場として実施する予定。TIJ受講生が講師となり、TIJで得た知識をWS参加者に広める。TIJで作成した教員用指導書を使用して授業し、参加者からのコメントを受けて、教員用指導書をラオスの現状に合うものにリバイズする。ラオスでは6、7、8月が夏休みであるため、TTCの授業計画を妨げることなくWSを開催することが可能であるが、小・中学校において授業実践を行うためには、当該校で子どもたちを登校させる必要が生じることから、調整が必要である。

- 1 週目 準備、1日研究会開催、3日間講義
- 2 週目 現場小・中学校における授業実践、評価会

【ICT】

全国8か所のTTC/TTSで実施予定。ラオス側が主体となって実施する。TIJ受講生が、各自の所属校で実施する。プロジェクトのコンポーネントの一つであるが、プロジェクトとしての投入はなく、派遣中の教育アドバイザー（沢田専門家）の現地業務費を使用して開催する。詳細は未定。

(2) TIJにおいて作成する教員用指導書について

ラオスの子どもたちが理解しにくいトピックを選択し、1回のTIJにおいて数トピックずつの教員用指導書（学習指導案）を作成する。この指導書をWSにおいて使用し、参加者からのコメントを受けてリバイズし、ラオスの現状にあったガイドとする。ICTにおいては完成された指導書を使用する。

プロジェクト終了時点で、各教科において小学生、中学1、2、3年生の各学年の2～3トピック

ずつの教員用指導書ができるようにする。

TIJ の受講生が、日本に来る前に子どもたちが理解しにくいトピックを調査して持参する。

(3) TIJ 受講生の役割

TIJ 受講生は、WS、ICT において講師となり、今後のラオス理数科教育界をリードする人材となることが期待される。

(4) 研究会の役割

WS の 1 日目に研究会を実施する (WS は 2 か所で実施するので、研究会も 2 か所で実施)。直近の TIJ 参加者 10 名は、2 か所いずれかへの参加を義務付けられる。WS の参加者及び直近の TIJ 参加者が参加する。

午前 TIJ 参加者が、TIJ 終了後に実施した普及活動を報告する。

午後 TIJ 参加者が、TIJ 終了後に研究開発した教材・教具等についての発表を行う。

この研究会を通して、TIJ 研修生にとっては TIJ 研修成果の確認、自主的研究による自身の質の向上を促し、WS 参加者に対する啓蒙の役割を果たす。

プロジェクト最終年度の研究会では、過去の TIJ に参加した全研修員が参加し、教育普及活動及び研究活動等の成果の発表・総括を行い、理数科教育学会のようなものに発展していくように促す予定である。

(5) WS で行う授業実践の役割

本プロジェクトのターゲットは、理数科の TTC/TTS 教官及び、TESDC、DTT の関係者 (プレサードサービス関係者) であり、現場の小・中学校で教鞭をとる機会のない人たちである。新たに現場の小・中学校教員になる人材を教えるプレサードサービス関係者に現場の小・中学校で教えた経験がないということは、現場に即した教育を実施することが困難であることを意味している。日本においても、教員養成大学教官は現場で教えた経験がないことが多く、大学と現場のギャップが問題となっている。したがって、WS 時に、プレサードサービス関係者に現場の小・中学校で授業実践を行うことは有意義である。

WS における授業実践は、講師 (TIJ 受講生) の指導の下に、WS に参加者が地域の小・中学校で実施する。各分野 2 名程度ずつ実施することを予定しており、WS 参加者及び会場校の教員にも公開する予定であるが、詳細については、今後ラオス側と調整する。この授業実践においては、ラオスで現在行われている知識注入的で受身的学習から、探求的・創造的授業へのモデルを示すこと、TTC/TTS 教官に対して、理論と実践を統合した教育実践能力を身につけさせること、授業評価能力を身につけさせること等を目指す。

3 - 3 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトのカウンターパート機関は DTT であるが、インサービス・トレーニングを所管する一般教育局とも連携を図りながら、活動を実施して行く必要があることを確認した。

なお、下記 3 - 3 - 4 (2) 組織図のとおり、教員養成局の人員体制はきわめて脆弱であることから、本プロジェクトの円滑な実施を確保するためには、各コンポーネントの活動として、ラオス側のカウンターパートとともに企画立案・実施・モニタリング及びフォローアップを実施する長期専門家

(研修計画／業務調整)の派遣が強く望まれる。同専門家に求められる TOR (案) は以下のとおり。

1. 国別研修、ワークショップ、国内研修の受講者選考
2. ワークショップ、国内研修の準備(必要物品購入等)／運営／モニタリング／評価／報告書作成／現地業務費の管理
3. 全国8か所の TTC／TTS との連絡調整
4. ワークショップ、国内研修の準備／運営等についての技術移転
5. 協力隊員(理数科教師、数学教師)との情報交換
6. 本プロジェクトの予算措置がなされるよう、関係者の意識醸成
7. プロジェクトの評価についての理解促進
8. プレサービスとインサービスの連携促進
9. EQUIP II との情報交換
10. 他ドナー、NGO との情報交換

3 - 3 - 1 カウンターパート

DTT 局長、DTT 副局長(教員養成担当)、DTT スタッフの3名

3 - 3 - 2 プロジェクト管理ユニット(Project Management Unit : PMU) の設置

プロジェクトの円滑な実施のために、PMU を設けることを検討する。メンバーは上記のカウンターパート3名に加え、JICA 教育アドバイザー、プロジェクト調整員、その他必要に応じて雇うモニタリングのためのローカルコンサルタント、秘書が挙げられた。

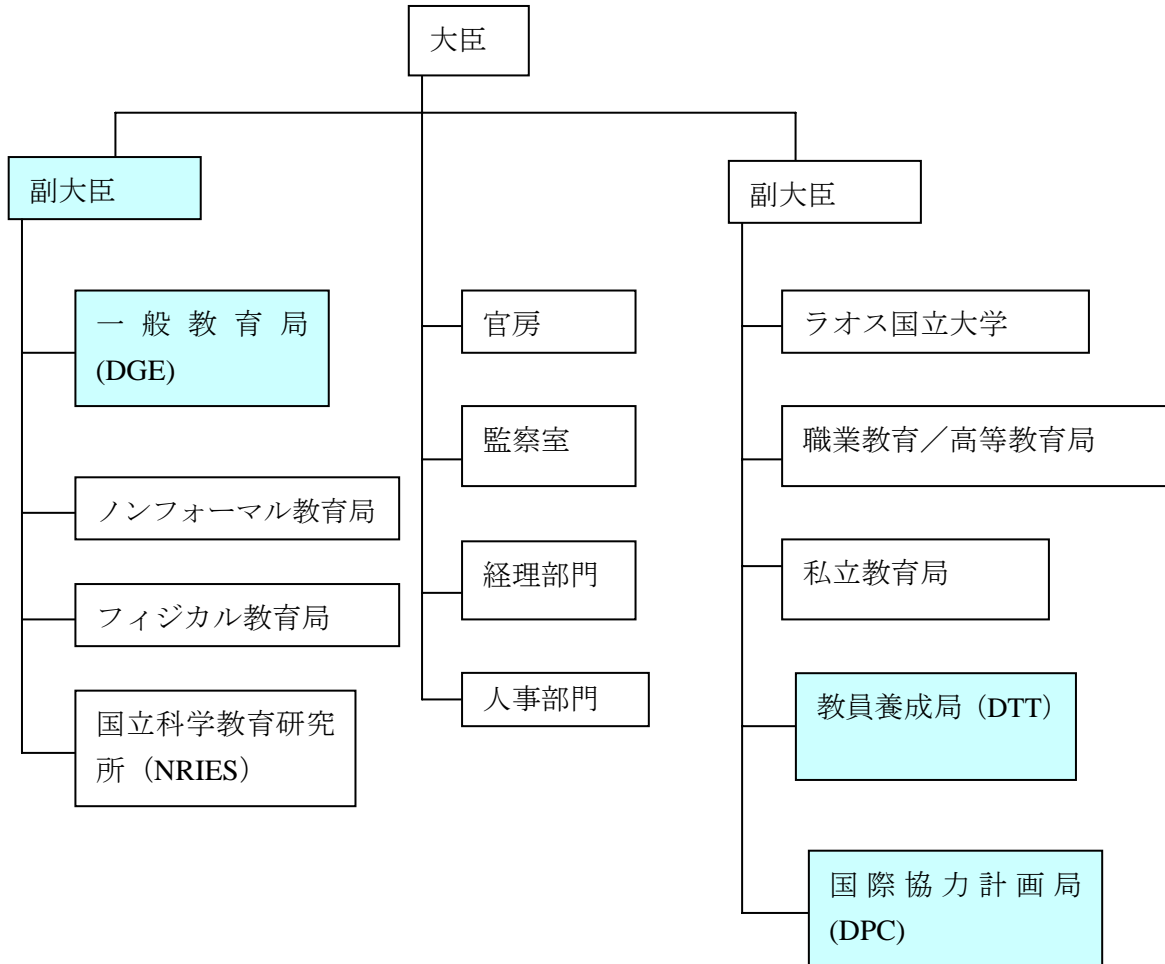
3 - 3 - 3 合同調整委員会(Joint Coordinating Committee : JCC) の設置

年間活動計画の策定、年間活動結果及び進捗状況の確認及びプロジェクトを実施する上での議題についての意見交換等を行うために、JCC を設置する。予定されるメンバーは、ラオス側においては、教育副大臣、計画協力局長、教員養成局長、一般教育局副局長、カウンターパートであり、日本側においては、JICA ラオス事務所長、長期専門家(教育アドバイザー及び業務調整員)である。

3 - 3 - 4 関係機関の組織図

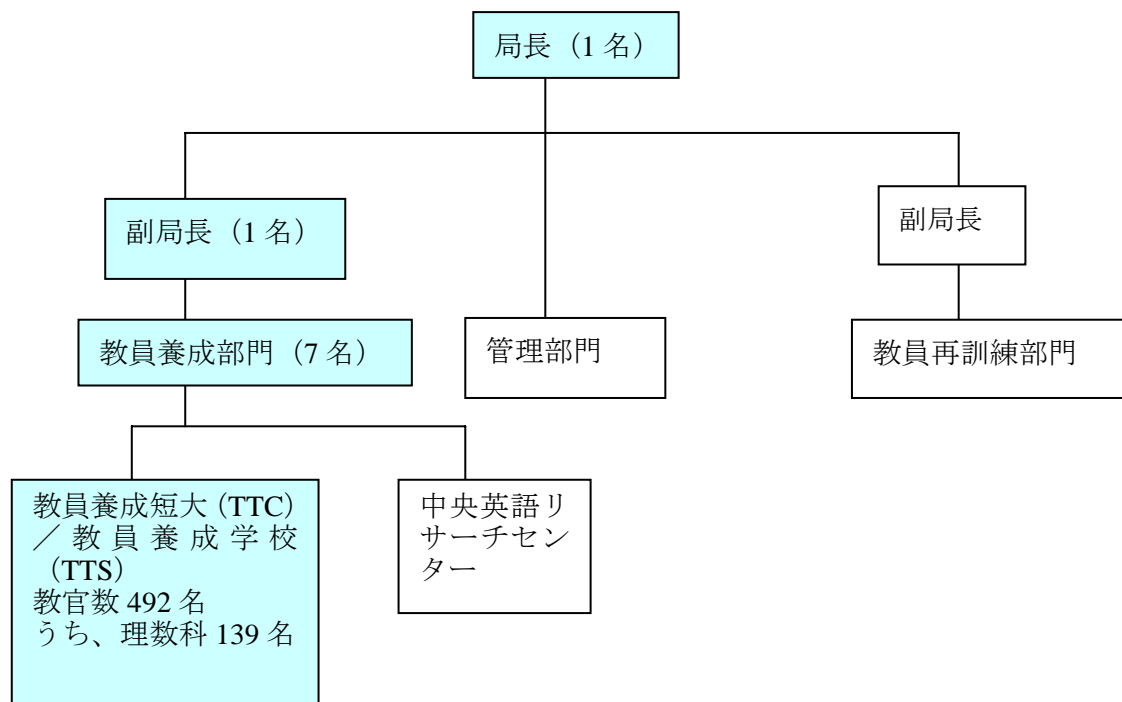
本プロジェクトに関係する機関である、教育省(Ministry of Education : MOE)、DTT、教育省一般教育局(Department of General Education, MOE : DGE)、TESDC の組織図は以下のとおり。

(1) 教育省 (MOE) の組織図



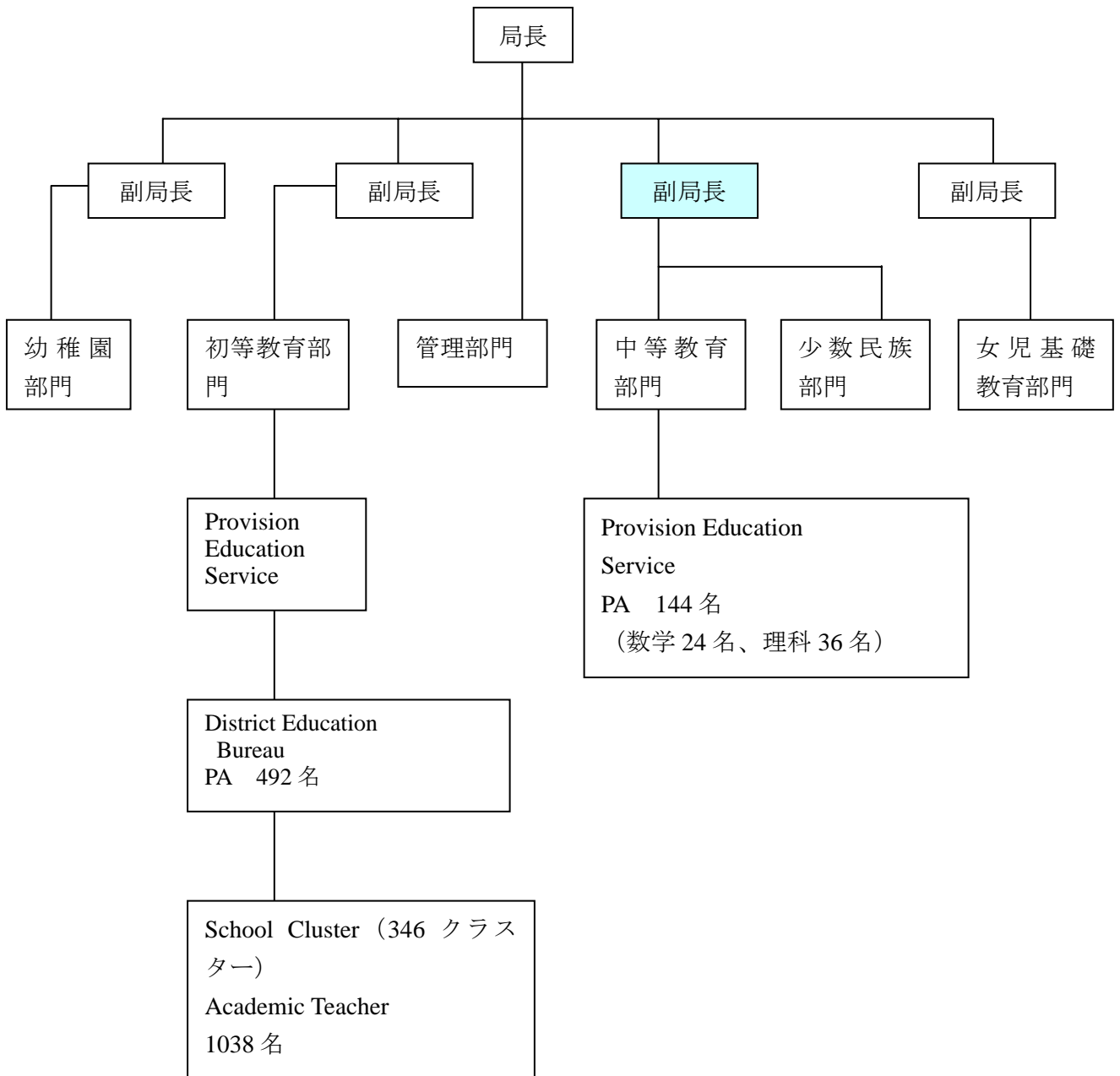
網掛け部分：今般のプロジェクトに関係する部署

(2) 教育省教員養成局 (DTT) の組織図



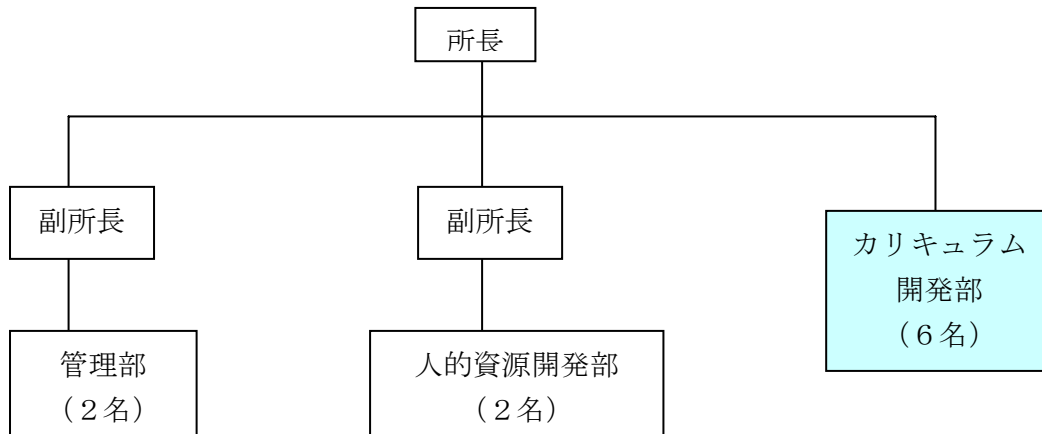
網掛け部分：今般のプロジェクトに関係する部署

(3) 教育省一般教育局 (DGE) の組織図



網掛け部分：今般のプロジェクトに係る部署

(4) 教員教育・運営開発センター (TESDC) 旧 TDC の組織図



網掛け部分：今般のプロジェクトに関係する部署

3 - 3 - 5 カウンターパート機関の予算 (2002-2003 年度)

ラオスの予算年度は10月から翌年9月までであり、出張時は2002 - 2003年度の最後の月であった。2002 - 2003年度の予算のうち、教員研修・施設改善等経費は約 24 Billion Kip (約 2億 4,000 万円：うち、22 Billion Kip は外国援助) であり、2003 - 2004年度の経常経費予算は約 100 Million Kip である。予算に係る入手資料は巻末資料 2 のとおり。

3 - 3 - 6 プロジェクト投入計画

(1) 協力期間

2004年4月～2008年3月 (4年間)

(2) 日本側投入

研修生受入：国別研修 年間 10名×2か月×3年

短期専門家：4名 (数学、物理、化学、生物) ×1か月×4年

長期専門家：1名 (研修計画/業務調整) ×12か月×4年

(3) ラオス側投入

カウンターパート：3名 (教員養成局長、教員養成局副局長、オフィサー)

必要経費負担：WS や ICT における必要経費

ラオスの財政状況より、プロジェクト開始当初は必要経費の負担が困難であると思われるが、自立発展性の面から、徐々にラオス側の負担を増やすことにつき、常に働きかけていくこととする。

3 - 4 プロジェクトへの教育アドバイザーの役割

3 - 4 - 1 当初案

(1) 各コンポーネントに対する関わり方

- ・国別研修：参加者の選考補助をする。
- ・ワークショップ：参加者の選考補助に加え、開催準備をする。
- ・国内研修：企画立案から実施をする。

(2) 国内研修と地域研修会

教育アドバイザーが計画している地域研修会を、プロジェクトのコンポーネントの一つである国内研修として開催することとし、プロジェクトのターゲット外であるインサービス関係者も含めて、プレサービスとインサービスとの連携を図る予定であった。

3 - 4 - 2 協議結果

(1) 各コンポーネントに対する関わり方

上記3-4-1(1)と同様。詳細な役割分担は付属資料2のとおり。ただし、研修計画／業務調整の長期専門家が派遣される場合は、ほとんどの業務をこの長期専門家が担当し、必要に応じて教育アドバイザーの助言を求める形態となる。

国別研修に対する関わり方としては、参加者の選考補助にととまらず、以下について具体的なアイデアが出された。

- ア．参加者決定後に、研修までの課題を伝達する。
- イ．出発式を開催して心構え等を伝える。
- ウ．帰国後、参加者各自の出身校において報告会を開催させる。

(2) 国内研修と地域研修会

ラオス事務所との協議の結果、同アドバイザーが計画する地域研修会は、地域の養成校教官・現職教員・指導主事等からの自主的な研修会開催を支援する形態をとることを計画していることが判明した。自主的に研修会が開催されることは理想の形態であるが、自主的な申請を待っている、プロジェクトとしての成果を計りにくいため、地域研修会と国内研修とを切り離し、本プロジェクトの国内研修は、能動的に開催していくこととした。

(3) その他

プロジェクトのコンポーネントではないが、同専門家は、プレサービス及びインサービス・トレーニング関係者に対して、地域研修会やタイでの第三国研修等を計画している。これらの研修等は、理数科関係者に限定せず、広く一般の教員をも対象にしていることから、本プロジェクトと重複することはなく、JICAの協力プログラムとして実施する。

3 - 5 関係機関との意見交換

3 - 5 - 1 計画協力委員会

- ラオスの初等教育分野では、量的には改善されてきているが、質的にはまだ低い状態にある。それを改善するためにJICAが実施している国別研修とワークショップに感謝している。

- 2003 - 2004 年度の教育予算は 790 Billion Kip であり、そのうちの 160 Billion Kip は、外国のプロジェクトに対して支出するものである。外国のプロジェクトに対して、リカレントコストを出せるように努力していきたい。リカレントコストについては住民参加を求めていく予定だが、まだ具体的な計画はできていない。

3 - 5 - 2 教育省副大臣

- 初等教育分野の教員数は、総数では不足していないと思われるが、地域差がある。教員養成校を卒業した教員が、地方に赴任したがるため、地方ではトレーニングを受けていない人が教壇に立っており、教育の質が低くなっている。僻地手当を設けているが、そもそも教員の給料が低いいため、僻地手当でも低く、地方に赴任するインセンティブに至っていない。
- 5 年前、EQIP I プロジェクトで教科書を改善して地方に配った。それ以降、原本はあるが印刷する予算がないため、配ることができていない。

3 - 5 - 3 教育省計画協力局

- 本プロジェクトに対して可能な限り協力する。教員の質を世界のスタンダードに近づけるのが目的である。
- 現在、教育分野では EQIP II プロジェクトが始まっており、他のプロジェクトとの重複を避けながら実施しているので、情報交換をしてほしい。→調査団から、情報交換をする旨回答。

3 - 5 - 4 教育省一般教育局 (DGE)

- 本プロジェクトの対象に Secondary level の PA も含めてほしい。本プロジェクトの対象である TTC/TTS は全国 8 か所にしかないが、PA はすべての省の Provision Education Service にいるため、プロジェクトの成果がより顕在化するものと思われる。→調査団から、検討する旨回答。
- 本プロジェクトに期待することは、研修を受けた者がラオスで活躍すること及び、ラオスの現場に合った授業をすることである。
- 教育省の計画では、現職教員の再訓練（インサービストレーニング）を少なくとも年に 1 度実施することになっているが、2 年前から予算不足で実施していない。外国のプロジェクトがあれば実施している。
- Secondary level の指導主事になるための条件は、①5 年間の教員経験があること、②35 歳以下であること、③TTC/TTS 卒業または同等レベルであること、④1 年間研修を受けることである。
- ユニセフがいくつかの省で実施した Teacher Upgrade Program は、教員養成局の管轄であったが、PA を対象とする研修であったため、教員養成局と連携して実施した。

3 - 6 プロジェクトの総合的実施妥当性

評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から、本プロジェクトを総合的に評価した結果は以下のとおり。

3 - 6 - 1 妥当性

(1) ラオスの教育分野の計画との整合性

3 - 1 - 1 にも記載したとおり、本プロジェクトは NPEP の「教育の質の改善」に資するもので

あり、妥当であると判断できる。

(2) JICAの国別事業実施計画との整合性

3 - 1 - 2にも記載したとおり、JICAの国別事業実施計画では、人造り、BHN支援(含、環境)、農林業、インフラ整備・エネルギー開発の4分野が援助重点分野として挙げられており、BHN支援の中に、「初等・中等教育の普及」が挙げられている。本プロジェクトは初等・中等教育の質の改善に資するものであるため、本プロジェクトを行う妥当性は高いと判断できる。

3 - 6 - 2 有効性

(1) 目標達成の度合い

本プロジェクトにおいては、ターゲットを教員養成に携わる者(プレサービストレーニング関係者)に絞っている。その理由は、3 - 2 - 3に述べたとおり、対象者がラオス全国で150名程度であることから、本プロジェクトでその全員を対象にできるからである。本プロジェクトでターゲット全員がTIJ、WS、ICTのいずれかを必ず受講するので、質の改善に結びつくことが予想され、プロジェクト目標の達成が見込まれる。

3 - 6 - 3 効率性

(1) 講師の育成

本プロジェクトでは、国別研修受講生をラオスの理数科教育界のリーダー的存在にまで育つように計画している。ワークショップでの講師としての指導・評価経験を通して、国別研修受講生は、国内研修において指導・評価ができる能力をつけることを目指している。また、ワークショップにおいても、国内研修においても、国別研修受講生が講師として指導・評価する方法を採用しており、知識の抜け落ちが課題であるカスケード方式の採用を避けていることから、効率的であると言える。

(2) 研修生の選考

ラオス国内で開催するワークショップの参加者から、学習する姿勢等を評価し、優秀な人を日本で開催する国別研修に参加させることを計画しており、より優秀な人材を育てることができ、効率的であると言える。

(3) 各コンポーネントの連携

1 - 1にも述べたとおり、本プロジェクトは、今まで個々のスキームで実施されていた国別研修とワークショップを連携させたこと、また、新たに国内研修を加えることにより、国別研修で得た知識等が効率的に普及するように計画したことから、効率的であると言える。

3 - 6 - 4 インパクト

本プロジェクトを通して、①教官が自ら果たすべき役割を理解し、②ラオスの子供たちが理解しにくいトピックの教員用指導書を整備し、普及させ、③教官が質の高い授業の実施方法を理解し、④ワークショップ、国内研修を実施・評価できるようになることを成果としており、それらが実現されれば、教官の自主的な参加により質が改善される。これはラオスの教育界に大きなインパクトを及ぼすことができる。

3 - 6 - 5 自立発展性

以下により、技術面、財政面での自立発展性を確保するのに役立つと思われる。

(1) 技術面

上記3 - 6 - 3にも述べたとおり、本プロジェクトではラオスの理数科教育界のリーダー的存在が育つように計画している。現在のところ、本プロジェクトの主要ターゲットである TTC/TTS 教官は、他の教官と知識を交換したり、協議したりすることはないが、本プロジェクトを通して、知識交換等の重要性を認識付けていく予定であるので、本プロジェクトが終了した後も、彼ら独自の企画によるトレーニングが続いていくと思われる。ワークショップの1日目に実施する研究会は、プロジェクト終了後に理数科教育学会として発展できるように指導を行っていくことから、自立発展性が認められる。

(2) 財政面

ラオスの教育財政事情は厳しいが、本プロジェクトでは全国各地で国内研修を実施することを計画しており、旅費等の経費が最小になるように考えられている。また、年を経るごとにラオス側の負担を増やしていくことを計画しており、時間をかけてラオス側のオーナーシップを醸成していくことを考えている。

第4章 他ドナーの動き

4 - 1 概要

ADB、SIDA が支援している EQUIP II の全体予算概算は約 3,700 万ドルであり、その内訳は ADB2,000 万ドル、SIDA930 万ドル、ラオス政府 800 万ドルとなっている。

基礎教育に係る総合的なプロジェクトであり、教育省の中では、局の垣根を越えてプロジェクト実施委員会が設置されており、海外のコンサルタントが数名常駐しており、ラオス人のコンサルタントも多数雇用している。

4 - 2 活動内容

EQUIP II は三つのコンポーネントからなっており、それぞれの大まかな内容は以下のとおりである。

(1) コンポーネント 1

ア. サブコンポーネント A 教員訓練システムと教員開発能力の向上

TTC/TTS のカリキュラム支援、教員の待遇改善、教員／校長／トレーナーの留学/資格向上支援

イ. サブコンポーネント B 施設の建設と改善

TTC/TTS の施設改善、PA や Network Teacher Upgrading Center : NTUC への教材支援、リソースセンターの設立支援

ウ. サブコンポーネント C 教員トレーニングの実施

無資格教員へのトレーニング、インサービス・トレーニングのシステム向上、コミュニティとの連携促進

(2) コンポーネント 2

ア. サブコンポーネント A 初等教育へのアクセス増加のための支援

スクールマッピング、学校建設

イ. サブコンポーネント B コミュニティ参加と学校の財政管理の推進

学習教材等のパッケージの供給

(3) コンポーネント 3

・管理能力の強化とプロジェクトの実施

教育省と県教育局及び郡教育事務所のキャパシティー強化

このうち、上記 (1) のコンポーネント 1 は TTEST と呼ばれている。既にコンサルタントによる調査が開始されているが、まだ詳細計画は決定していない。本プロジェクトのターゲットである TTC/TTS 関連の協力も EQUIP II に含まれているが、EQUIP II はマクロ的な改善を目指すものであるため、教科教育に焦点をあてた本プロジェクトの内容とは基本的に重複がないことが確認された。

4 - 3 活動の展開

(1) フェーズⅠ

6省（バケオ、チャンパサック、ルアンパバン、サバナケット、サヤブリ、ビエンチャン）の中の12郡において実施。国家レベルと地方レベルにおいてワークショップを行い、業務計画を策定すると同時に、実施方法についての計画を作成し、実施に移す。

(2) フェーズⅡ

フェーズⅠと同様の地域で実施。フェーズⅡ以降の詳細計画は未定。

(3) フェーズⅢ

フェーズⅠと同様の省の37郡で実施。

(4) フェーズⅣ

3省（ルアンナムタ、サラワン、シェンクワン）の中の9郡において実施。

第5章 教員養成学校訪問

ビエンチャン市近郊のドンカムサン TTS を訪問し、校長、副校長以下教職員と意見交換を行い、施設を見学した。

5 - 1 概要

校長1名、副校長2名を含む44名の教官及び職員が勤務している。ほとんどの教官は大学卒業レベルである。11+1コース（高校の卒業生を対象に1年間のプログラムで幼稚園教諭と小学校教諭を養成するコース）の学生を受け入れており、昨年度の学生数は幼稚園教諭コース146名、小学校教諭コース185名の331名（うち女性241名）であった。今年度の新学期はまだ始まっていないが、現時点では146名分の推薦がある。

学生のほとんどは地方出身者（推薦を受けて来る）であり、学内の寮（寮費無料）で生活している。TTS予算のすべてが政府から手当されており、学生から授業料の徴収はない。学生には月6万キップ（約600円）の奨学金が支給されるが、親からの送金も必要となる。貧しい学生には、日本の「WAKO」から奨学金が支給される^(*)。教科書は図書館のものが貸し出され、学生個人では教科書を持たない。卒業単位に満たない学生には補講を行うことがある。卒業後は、それぞれ出身地に戻っていくが、すべての卒業生が教員になるかどうかは追跡調査をしていないのでわからない。

^(*)「ラオスのこども」（旧：ASPBラオスの子どもに絵本を送る会）が和光石原奨学金から受託して行っている事業のことであると思われる。

5 - 2 新規教員養成と現職教員再訓練の連携及び教員養成校と現場の小学校との連携

小学校教諭になるコースにおいては、国立教育科学研究所（National Research Institute for Educational Science：NRIES）において開かれるPAとの交流会に参加することや、8週間行われる教育実習の際に、担当地区のPAが指導に加わることで、新規教員養成と現職教員再訓練の連携が図られているとの説明があった。また、TTS教官がPAの研修会に参加することで情報交換等が可能である。さらに、養成校教官が現場の小学校で子供に対して教える機会があり、現場小学校の教員がTTSでのトレーニングを受けることも可能であるとのことであった。ただし、これらの活動が実際にどれくらいの頻度で行われているかといった点については、十分な説明が得られなかった。

5 - 3 施設等

EQIP Iにより建設された建物であり、建物自体はまだ新しく見えたが、雨漏りがするため屋根を改修中であった。新学期が始まる前であったため、教室及び図書室の中を見ることはできなかったが、窓から覗く限りでは、数少ない教材が保管状態も悪く散乱していた。また、本年3月に実施したWSのテキスト（WS後に各地に配布して活用するよう要請しておいたもの）が段ボールに入ったまま放置されていた。

5 - 4 今後の課題

上記を受け、本プロジェクトで課題となる点は以下のとおり。

- ・TTC/TTS 教官や現職教員は、彼ら自身が教材・教具を使用した授業を受けていないため、そ

これらの重要性・必要性を認識していないと思われる。したがって、TIJ、WS、ICTを通じて教材・教具の使用方法を教えるのみならず、教育アドバイザーが開催する地域研修会等においても、常に教材・教具の重要性・必要性を伝え、長期的に意識改革に取り組んでいく必要がある。

また、JICA の現在までの活動経験から、今後のラオスの教育分野における課題であると思われる点は以下のとおり。

- (1) 授業で教材が十分活用されていないのは、暗記力や知識のみを問う試験に問題があると思われる。今後、試験等の評価方法改善の必要性を説いていく必要がある。
- (2) 現場の学校では、ほとんどの生徒が教科書を持っておらず、生徒が教員の板書をノートに書き写すだけの授業になっている。教員に対して指導法をトレーニングすることに加えて、暗記重視の試験を改善することにより、板書の書き写しでは試験に対応できなくなることから、生徒一人一人が教科書を持つ必要性が生まれると思われる。
- (3) TTC/TTS では基本的な教材・教具が不足している。例えば、天秤やバネ秤、ものさし、ノギス、マイクロメーター、ストップウォッチ、温度計、虫眼鏡等である。これらは TTC/TTS のみならず小・中学校でも必要とされているため、供与する必要があるが、供与するだけでは上記 5 - 3 のように放置されるため、使用方法を指導し、常に使用されるまで指導していく必要がある。これは本プロジェクトで機材を導入する場合には留意すべき点であるし、また、EQIP II で導入する場合にも注意喚起する必要がある。また、TTC/TTS や小・中学校の予算を考慮し、スペアパーツ等の消耗品の供与、または、消耗品の補充が必要となる機材の導入には慎重を期すべきである。

第6章 今後の予定

以下の目的のため、本年12月を目途に第二次事前評価調査団を派遣する。

- (1) 本プロジェクトの評価方法/項目の詳細に関する検討
- (2) 同評価方法に基づく TTC/TTS のベースライン調査の実施
- (3) TTC/TTS、TESDC に対するプロジェクト説明会の開催

なお、R/D の署名については、2004 年 2 月の実施を目途とする。

6 - 1 調査団の人数

数学、物理、化学、生物の4教科のベースライン調査が必要になることから、各教科1名ずつ、及び協力企画・調整に1名の合計5名を派遣する。

6 - 2 調査団の日程

以下(案)のとおり、2週間程度の派遣とする。

第二次事前評価調査の日程(案)

日数	日付	曜日	工 程
1	12/15	月	移動(日本→バンコク)
2	12/16	火	移動(バンコク→ビエンチャン)、評価表についての協議
3	12/17	水	評価表についての協議、評価表完成、説明会準備
4	12/18	木	プロジェクト説明会、ミニッツ協議
5	12/19	金	ビエンチャンでのベースライン調査(4教科)
6	12/20	土	移動(ビエンチャン→地方1)
7	12/21	日	地方1での調査準備
8	12/22	月	地方1でのベースライン調査(4教科)
9	12/23	火	移動(地方1→地方2)
10	12/24	水	地方2でのベースライン調査(4教科)
11	12/25	木	移動(地方2→ビエンチャン)、ミニッツ作成、ローカルコンサルと契約
12	12/26	金	ミニッツ署名、報告
13	12/27	土	移動(ビエンチャン→バンコク)
14	12/28	日	移動(バンコク→日本)

地方1：ルアンパバン

地方2：サバナケット を想定

6 - 3 ベースライン調査の詳細（案）

下記（１）～（３）の調査を考えているが、それぞれの実施方法及び調査項目については、第二次事前評価までにラオス側に当方案を提示し、実施可能性について協議する。

特に、（２）については、TTC/TTS 教官等ラオス側が抵抗を感じる虞もあるため、プロジェクト開始後、十分にプロジェクトに対する理解が得られてから実施することが望ましいとも思われるため、十分協議する。

（１）授業観察

各教科において、４トピック程度（ラオスの子どもが理解しにくいトピック）を選択し、各トピックにおいて２名ずつの授業を観察する。すなわち、各教科で８名ずつとなり、４教科では３２名となる。上記の授業観察を、三つの TTC/TTS において実施する。開催場所はビエンチャン、ルアンパバン、サバナケットを想定しているが、今後、教育省教員養成局と協議の上、決定する。

（２）基礎学力テスト

本プロジェクトのターゲット全員に対して、プロジェクト実施前後の基礎学力の変化を把握するため、テストを実施する。

（３）アンケート

本プロジェクトのターゲット全員に対して、プロジェクト実施前後の指導方法についての実態の変化を把握するため、アンケートを実施する。

付 属 資 料


1. ミニッツ (Minutes of Meetings)
2. 教育省教員養成局予算資料
3. 収集資料リスト

MINUTES OF MEETING BETWEEN
THE JAPANESE PREPARATORY STUDY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR IMPROVING SCIENCE AND MATHEMATICS
TEACHER TRAINING


The Japanese Preparatory Study Team organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Jun SAKUMA visited the Lao People's Democratic Republic from 1 to 6 of September, 2003, for the purpose of studying on the project for improving Science and Mathematics Teacher Training (hereinafter referred to as the Project)

During its stay in the Lao People's Democratic Republic, the Team exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned of the Lao People's Democratic Republic. The major points of the discussions are summarized in the document attached hereto.

Vientiane, September 6, 2003



Mr. Jun SAKUMA
Team Leader
Japanese Preparatory Study Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mrs. Sengdeuane LACHANTHABOUN
Director General
Department of Teacher Training
Ministry of Education
Lao People's Democratic Republic

THE ATTACHED DOCUMENT

Major Result of Discussions

1. Framework of the Project

Both the Lao side and the Team (hereinafter referred to as “both sides”) reconfirmed that improving teachers’ quality is one of the most important and urgent issues for promoting education development in the Lao PDR. On this recognition, both sides agreed to set a framework and formulate a project for improving science and mathematics teacher training based on the on-going cooperation activities such as the country-focused training in Japan, dispatch of JICA short-term experts for the annual workshops in the Lao PDR and so on. The agreed tentative framework of the Project is shown in Annex 1.

2. Title of the Project

Both sides agreed the title of the Project is referred to as “Project for improving Science and Mathematics Teacher Training”.

3. Components of the Project

Both sides agreed that the project consists of three major components explained below:

(1) Training in Japan (TIJ)

TIJ will be implemented annually at NARUTO University of Education in Japan from October to December (2 months). In principle, participants of TIJ are the Teacher Training College (TTC) / Teacher Training School (TTS) teachers, and those from Teacher Development Center (TDC) and the Department of Teacher Training in the Ministry of Education (DTT). Candidates of participants of TIJ will be selected among the participants of annual workshop held on July. In the workshop, performance of the participants will be monitored and candidates of TIJ participants will be decided at the end of the workshop

as a result of close consultation between JICA experts and the Ministry of Education.

After TIJ, participants of TIJ have obligation to function as instructors in the next year workshop.

(2) Annual Workshop (WS)

WS will be conducted in the Lao PDR around July annually. Several TTC/TTS will be used as the venue of WS. The participants of TIJ, as instructors, teach knowledge obtained in TIJ to other TTC/TTS teachers and those from TDC and DTT. Japanese short-term experts also join the workshop and will give some advice to instructors (TIJ participants) and evaluate their teaching skills.

(3) In-Country Training (ICT)

ICT will be conducted in TTC/TTS annually. Again, the participants of TIJ will be instructors of ICT. Participants of ICT will be those who did not join WS held for the same topics.

4. Overall Goal of the Project

Both sides confirmed that the overall goal of the Project would be “Teacher training in the field of science and mathematics will be qualified.”

5. Project Purpose

The purpose of the Project is “Quality of TTC/TTS teachers in science and mathematics will be improved.”

6. Outputs of the Project

- (1) TTC/TTS teachers will understand the educational situation of the Lao PDR and be aware of their roles and functions in improving the situation.
- (2) Teaching guides on science and mathematics used for pre-service

training in TTC/TTS are developed and utilized.

- (3) TTC/TTS teachers will understand qualified lessons in science and mathematics.
- (4) WS and ICT will be properly implemented and evaluated by the participants of TIJ.

7. Activities of the Project

- (1-1) 【TIJ】 Participants of TIJ take lectures on Japanese school system, education system and teacher training system.
- (1-2) 【TIJ】 By comparison with Japan, participants of TIJ review the education system in the Lao PDR and specify the problems to be solved.
- (1-3) 【WS, ICT】 Participants of TIJ introduce what they learned in Japan ((1-1) and (1-2) mentioned above) as instructors of WS and ICT.
- (1-4) 【WS, ICT】 Participants of WS and ICT review the education system in the Lao PDR and specify the problems to be solved.
- (1-5) 【WS】 Short-term experts give lectures on the current educational situation in Japan.

- (2-1) 【TIJ, WS, ICT】 Topics difficult for TTC/TTS students and students of primary and lower secondary schools to understand will be identified.
- (2-2) 【TIJ】 Participants take lectures on how those topics are taught in Japan and practice them.
- (2-3) 【TIJ】 Based on the lectures above, participants develop teaching guides on the topics.
- (2-4) 【WS, ICT】 Participants of TIJ make lectures with use of the developed teaching guides.

- (3-1) 【TIJ】 Participants of TIJ observe real lessons in primary and lower secondary schools in Japan.

- (3-2) 【TIJ】 Participants take lectures and practices about teaching method of the subjects.
- (3-3) 【TIJ】 Participants design lessons appropriate in the Lao PDR with refer to Japanese method.
- (3-4) 【WS、 ICT】 Participants of TIJ introduce lessons designed in TIJ.
- (3-5) 【WS、 ICT】 Participants design lessons by themselves.
- (3-6) 【WS、 ICT】 Participants conduct trial lessons in some primary and lower secondary schools, and instructors (participants in TIJ) monitor and evaluate them.
- (3-7) 【WS】 Japanese short-term experts evaluate overall activities in WS.

- (4-1) 【TIJ】 Participants of TIJ take lectures and practice evaluation skills.
- (4-2) 【WS、 ICT】 Participants of TIJ evaluate the trial lessons conducted by participants.
- (4-3) 【WS】 Japanese short-term experts evaluate instructors'(participants in TIJ) evaluation.

8. Target group of the Project

Both sides agreed that the target of the project is people concerning pre-service teacher training on science and mathematics, that is TTS/TTC teachers, and those from TDC and DTT.

9. Monitoring and Evaluation of the Project

- (1) Both sides agreed that monitoring of the Project would be conducted by using questionnaire, monitoring sheet and so on after each TIJ, WS and ICT.
- (2) Besides above, the review meeting will be conducted at the beginning of each WS. In this meeting, participants of TIJ ought to report their dissemination activities after joining TIJ.
- (3) Both sides agreed that evaluation of the Project would be conducted by observing changes in the real lessons by TTC/TTS teachers before and after the Project. For the purpose of deciding the detail of the



evaluation method and conducting a base-line survey, JICA will examine the dispatch of short-term experts around the end of 2003.

10. Duration of the Project

The duration of the Project shall be four (4) years. The date of the commencement of the Project is to be agreed between the JICA office in the Lao PDR and the authorities concerned of the Lao PDR.

11. Measures to be taken by the Japanese side

(1) Short-term experts

The Government of Japan will consider providing the services of the Japanese experts as listed in Annex 2.

(2) Training in Japan

The Government of Japan will receive ten (10) TTC/TTS teachers and those from TDC and DTT each year as participants to "Country-focused Training".

12. Measures to be taken by the Lao side

(1) The government of the Lao PDR will provide counterparts. Tentative list of the counterparts is shown in annex 3.

(2) The government of the Lao PDR will bear operational cost for WS and ICT.

13. Project Management

(1) To manage the project smoothly, both sides agreed to consider establishing Project Management Unit (PMU). Proposed PMU members are shown in Annex 4.

(2) The Joint Coordinating Committee (JCC) will be conducted once a year or whenever the necessity arises in order to fulfill the following function:

1) To formulate and decide the annual work plan of the Project

2) To review the progress of the annual work plan

- 3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the Project
- 4) To discuss any other issues pertinent to the smooth implementation of the Project.

Tentative list of JCC members is shown in Annex 5.

14. Project Design Matrix (PDM)

Tentative PDM of the Project is shown in Annex 6.

15. Signing of the Record of Discussions

Both sides agreed that when the Project is found viable and officially accepted by the Japanese Government, based on the outcome of the Team, the implementation and detailed contents of the Project will be determined in the "Record of Discussions" which will be signed between the JICA office in Lao PDR and the Lao PDR authorities concerned as soon as possible after finishing the baseline survey.

16. Plan of Operation for the Whole Period

Tentative Plan of Operation is shown in Annex 7.

17. Others

- (1) TIJ this year (2003) will be conducted according to the existing operation plan. Accordingly it is excluded from this Project.
- (2) The Project will seek to have close linkage with activities in the related field planned and implemented by the JICA long-term expert in DTT.

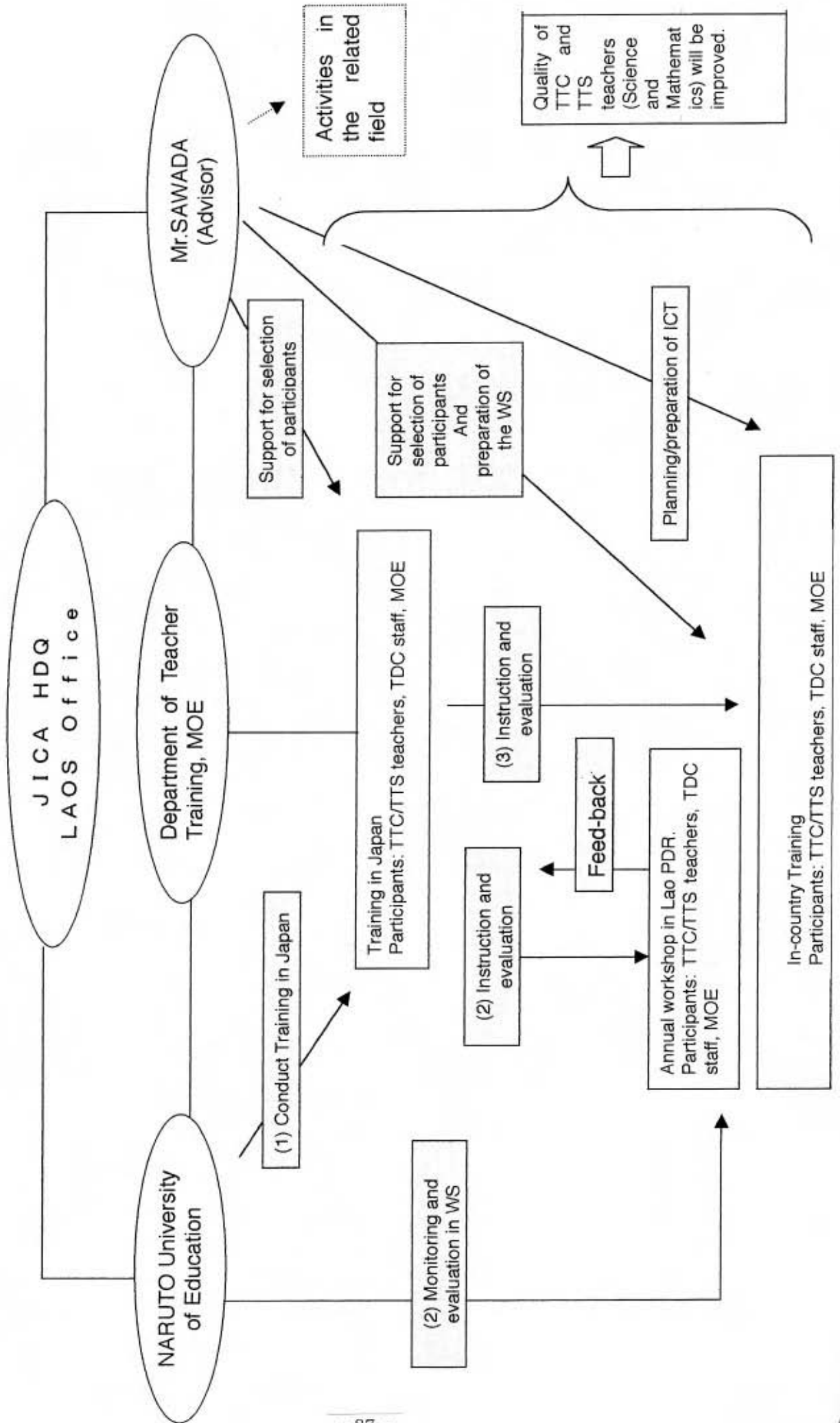
Annex

- 1 Framework of the Project
- 2 Japanese experts
- 3 Tentative list of counterparts
- 4 Proposed list of Project Management Unit (PMU) members
- 5 Tentative list of Joint Coordinating Committee (JCC) members
- 6 Tentative Project Design Matrix (PDM)
- 7 Tentative Plan of Operation (PO)



Annex 1 : Framework of the Project

Project Target : MOE, TDC, TTC, TTS teachers related to Science and Mathematics Education



Handwritten signature

Handwritten number 9

Annex 2

List of Japanese Experts

【Long-term expert】

1. Project Coordinator

【Short-term experts】

1. Mathematics education
2. Physics education
3. Chemistry education
4. Biology education

Handwritten signature

Handwritten mark

Annex 3

List of counterparts

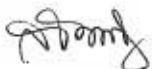
1. Mrs. Sengdeuane Lachanthaboun
Director General
Department of Teacher Training, Ministry of Education (MOE)
2. Mr. Chandy Phommabouth
Deputy Director General
Department of Teacher Training, MOE
3. Mr. Maaly Vorabouth
Officer
Department of Teacher Training, MOE



Annex 4

Proposed list of PMU members

1. Counterparts in the Department of Teacher Training, MOE
2. JICA long-term expert (Education Advisor)
3. JICA long-term expert (Project Coordinator)
4. National consultant for monitoring (if necessary)
5. Secretary



Annex 5

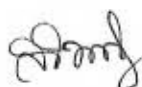
Tentative list of Joint Coordinating Committee (JCC) members

Lao side:

1. Vice Minister of Education (Chairperson)
2. Director General of Department of Planning and International Cooperation, Ministry of Education (MOE)
3. Director General of Department of Teacher Training, MOE
4. Deputy Director General, Department of General Education, MOE
5. Counterparts in the Department of Teacher Training, MOE

Japanese side:

1. Resident Representative of JICA Laos office
2. JICA long-term expert (Education Advisor)
3. JICA long-term expert (Project Coordinator)



Annex 6 Tentative Project Design Matrix (PDM)
 Project Title : Project for Improving Science and Mathematics Teacher Training
 Duration of the Project : 4 years
 The target of the Project : TTS and TIC teachers, and those from IDC and the Department of Education

Teacher Training in the field of science and mathematics will be qualified.

Narrative Summary Overall Goal	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Project Purpose Quality of TIC and TTS teachers in science and mathematics will be improved.</p>	<p>Score of the evaluation sheets will increase to more than ○ points. ○ Good examples will be introduced by participants of TIJ, WS, ICT. (*1)</p>	<p>Short-term experts and counterparts will jointly prepare the evaluation sheets, conduct 1) a pre-project (base line) survey and 2) a post-project survey and compare the results. (*2)</p>	<p>Participants of TIJ, WS, and ICT do not quit their job.</p>
<p>Outputs 1. TIC/TTS teachers will understand the educational situation of the Lao PDR and be aware of their roles and functions in improving the situation. 2. Teaching guides on science and mathematics used for pre-service training in TIC/TTS are developed and utilized.</p>	<p>Score of the questionnaire about participants' understanding will increase by more than ○ points. (*1) The teaching guide will be prepared. ICT with the manuals will be conducted more than ○ times. The teaching guide will be used by the participants of TIJ, WS, ICT for more than ○ times in their classes.</p>	<p>Short-term experts and counterparts will jointly prepare a questionnaire for participants and conduct a survey after each TIJ, WS, and ICT. (*2) Completion of the teaching guides ICT reports (include check items on teaching guides use) Teaching guide users' oral presentations and written reports.</p>	<p>Participants of TIJ, WS, and ICT do not quit their job.</p>
<p>3. TIC and TTS teachers will understand qualified lessons in science and mathematics.</p>	<p>Score of the evaluation sheets will increase to more than ○ points. (*1)</p>	<p>Short-term experts and counterparts will jointly prepare the evaluation sheets and conduct a survey after each WS and ICT. (*2)</p>	
<p>4. WS and ICT will be properly implemented and evaluated by the participants of TIJ.</p>	<p>Score of the evaluation sheets will increase to more than ○ points. (*1)</p>	<p>Short-term experts and counterparts will jointly prepare the evaluation sheets and conduct a survey after each WS and ICT. (*2)</p>	
<p>Activities 1-1 [TIJ] Participants of TIJ take lectures on Japanese school system, education system and teacher training system. 1-2 [TIJ] By comparison with Japan, participants of TIJ review the education system in the Lao PDR and specify the problems to be solved. 1-3 [WS, ICT] Participants of TIJ introduce what they learned in Japan (1-1 and 1-2 mentioned above) as instructors of WS and ICT. 1-4 [WS, ICT] Participants of WS and ICT review the education system in the Lao PDR and specify the problems to be solved. 1-5 [WS] Short-term experts give lectures on the current educational situation in Japan. 2-1 [TIJ, WS, ICT] Topics difficult for TIC/TTS students and students of primary and lower secondary schools to understand will be identified. 2-2 [TIJ] Participants take lectures on how those topics are taught in Japan and practice them. 2-3 [TIJ] Based on the lectures above, participants develop teaching guides on the topics. 2-4 [WS, ICT] Participants of TIJ make lectures with use of the developed teaching guides. 3-1 [TIJ] Participants of TIJ observe real lessons in primary and lower secondary schools in Japan. 3-2 [TIJ] Participants take lectures and practices about teaching method of the subjects. 3-3 [TIJ] Participants design lessons appropriate in the Lao PDR, with refer to Japanese method. 3-4 [WS, ICT] Participants of TIJ introduce lessons designed in TIJ. 3-5 [WS, ICT] Participants design lessons by themselves. 3-6 [WS, ICT] Participants conduct trial lessons in some primary and lower secondary schools, and instructors (participants in TIJ) monitor and evaluate them. 3-7 [WS] Japanese short-term experts evaluate overall activities in WS.</p>	<p>Inputs (Japanese Government) [personnel] Short-term experts 4subjects (Math - Physics - Chemistry - Biology) x 1month x 3years Long-term expert (Project coordinator) x 1 x 12months x 4years [training] TIJ WS 10 persons x 3 years ICT 20 persons x 4 subjects x 2 times x 4 years 10 persons x 4 subjects x 2 times x 4 years</p>	<p>Inputs (Laos) [personnel] Necessary counterparts [local costs] Organize WS (provision of meeting places, participants' travel expenses etc.) Organize ICT (provision of meeting places, participants' travel expenses etc.)</p>	<p>Pre-conditions</p>
<p>4-1 [TIJ] Participants of TIJ take lectures and practice evaluation skills. 4-2 [WS, ICT] Participants of TIJ evaluate the trial lessons conducted by participants. 4-3 [WS] Japanese short-term experts evaluate instructors (participants in TIJ) evaluation.</p>	<p>(*1) ○ will be clarified before the baseline survey. (*2) Items of the evaluation sheets and questionnaires will be clarified before the baseline survey.</p>		<p>The targeted members will understand this project and have commitments for improving quality of teacher training.</p>

Handwritten signature

Handwritten mark

2. 教育省教員養成局予算資料

Estimation of Investment for Working plan of Ministry of Education Academic year 2002-03
and Yearly plan Academic year 2003-04 (Unit in Million)

No.	Name of project	Project no.	Working period	Total amount of project			Estimate of working 2002-2003			Investment plan			Remark
				Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	
1	Improve Savanaket TTC (make fence, gate, toilet and closet)	26	2002-04	130.50	130.50		80.00	80.00		50.50	50.50		
2	Repair Savahnakhet TTC's building	27	2002-03	100.00	100.00		100.00	100.00					
3	Improve Kungkhai TTC (repair building, make fence, gate and water pipes to building)	28	2003-04	336.00	336.00		150.00	150.00		186.00	186.00		
4	Improve Dongkhamxang TTC (run water supply, make fence and gate)	29	2002-04	150.00	150.00		100.00	100.00		50.00	50.00		
5	Improve Luangnumta TTC (install closets, 420 tables & chairs, furniture for library, repair old dormitory and electric network)	30	2002-04	278.00	278.00		180.00	180.00		98.00	98.00		
6	Improve fine arts and music school (repair building)	31	2002-03	100.00	100.00		100.00	100.00					
7	Improve Pakse TTC (repair hall's roof and library's, old dormitory and electric network)	32	2002-04	140.00	140.00		100.00	100.00		40.00	40.00		
8	Improve Banken TTC (make 2 toilets outside the building, tables & chairs 200 sets, and make fence)	34	2002-04	270.00	270.00		180.00	180.00		90.00	90.00		
9	Training English to all staffs in the country	53	2001-04	90.00	90.00		30.00	30.00		30.00	30.00		
10	Education quality improvement project phase II (ADB)	62	2002-06	280,000.00	80,000.00	200,000.00	3,675.83	201.06	3,474.77	62,337.96	15,966.19	46,371.77	
11	Training unqualified teachers in rural area by coordinate with UNICEF, CWS, SCN and CRS	83	2002-06	10,563.07	383.76	10,179.31	5,833.24	200.00	5,633.24	5,833.24	200.00	5,633.24	
12	Improve the quality of pre-elementary school's teachers and pre-elementary works.	84	2002-03	35.00	35.00		35.00	35.00		35.00	35.00		

No.	Name of project	Project no.	Working period	Total amount of project			Estimate of working 2002-2003			Investment plan			Remark
				Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	
13	Education Improvement Project phase II (SIDA)	86	2002-06	96,000.00		96,000.00	17,816.00	36.00	17,780.00	34,934.40	1,161.60	33,772.80	
14	Training research work in Teachers Training Institute	96	2002-03	44.00	44.00		44.00	44.00					
15	Training defence's work to final year student in Teachers Training Institute	97	2002-03	100.00	100.00		78.00	78.00					
16	Upgrade the teaching guide book for social science section in Teachers Training Institute	98	2002-03	50.00	50.00		50.00	50.00					
17	Workshop to recommend the usage of English curriculum for department and provinces	99	2002-03	30.00	30.00		30.00	30.00		30.00	30.00		
18	Hygienic health project in Elementary school (UNICEF)	100	2002-06	719.00	40.00	679.00	719.00	40.00	679.00	750.00	50.00	700.00	
19	Workshop to improve their work, practice the profession work in TTC	101	2002-03	30.00	30.00		30.00	30.00		50.00	50.00		
20	Encourage arts teaching, drawing and music in TTC	102	2002-03	75.22	75.22		40.00	40.00		50.00	50.00		
21	Observe the examination of TTC	103	2002-03	20.00	20.00		20.00	20.00		30.00	30.00		
22	Improve the information management and news in TTC	104	2002-03	20.00	20.00		20.00	20.00					
23	Arrange science challenge for young generation	105	2002-03	20.00	20.00		20.00	20.00					
24	Train unqualified teachers in 11+1 system	106	2002-03	628.49	46.49	582.00	628.49	46.49	582.00	650.00	50.00	600.00	
25	Make program for teaching-studying in TTC	107	2002-03	30.00	30.00		30.00	30.00		50.00	50.00		
26	Improve an envelopment in TTC	108	2002-03	40.00	40.00		40.00	40.00		50.00	50.00		
27	Observe the graduate students from TTC	109	2002-03	50.00	50.00		50.00	50.00					
28	Upgrade teachers to be match with the usage of fine arts and music's curriculum	110	2002-03	50.00	50.00		50.00	50.00		50.00	50.00		

No.	Name of project	Project no.	Working period	Total amount of project			Estimate of working 2002-2003			Investment plan			Remark
				Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	Grand total	Domestic	Aboard	
29	Train Balee & Sunsakitt's language to teachers who are teach Lao language	111	2002-03	50.00	50.00		50.00	50.00					
30	Train the science in Pakse TTC	112	2002-03	8.50	8.50		8.50	8.50					
31	Issue the fine arts and music curricula for 11+3 system	121	2002-03	100.00	100.00		45.00	45.00		50.00	50.00		
32	Workshop to show the technics for English teaching									150.00	150.00		
33	Research for the possibility to add up English language to elementary school and teachers' training school									40.00	40.00		
34	Workshop to upgrade the management and administrative in TTC									50.00	50.00		
35	Arrange the sport match between TTCs									100.00	100.00		
	Total			390,257.78	82,817.47	97,261.00	24,499.82	2,184.05	22,560	105,785.10	18,707.29	87,077.81	

Budget plan for year 2003-04

Ministry of Education
Teacher Training Dept.

Part	Sub-part	Sub-small part	Mini Sub-small part	Detail	Unit	Quantity	Cost/pre-diem	Budget from year 2003-04
1	2	3	4	5	6	7	8	10
2				Normal payment for administration				100,900,000
	14			Stationery and gasoline				
		20		Stationery and printing				
			1	Stationery				
				Total printing (by estimate from the target)	Person	30	200,000	6,000,000
			2	Print pattern				3,000,000
	25			Transportation fare				
		10		Equipments transferring				
		50		Trip fare				
			1	Air ticket and bus ticket	Flight	20	1,100,000	22,000,000
			2	Food and staying fare				14,000,000
			3	Taxi and Airport fare				1,000,000
			4	Committee pocket money				1,500,000
			5	Personal pocket money				1,000,000
	26			Guests reception, conference and seminar				
		50		seminar				
		60		Payment of conference (for teacher institute's directors year 2002)	Time	1	50,000,000	50,000,000
		70		Guest reception	Time	12	200,00	2,400,000
4				Payment for improving and supporting				
	51			Payment to improve and support the counterparts				
		2		Education				
			1	Improving and developing the education in all levels				
			2	Developing the education's equipments				
			4	Developing the human resource				

Remark: Explanation

- * Sub-part 14.20.1 and 2 are payment for the need of stationeries and printing patterns of each person
- * Sub-part 25 is transportation fare for business trip in Laos and aboard
- * Sub-part 26 is for reception guests from the country and aboard, who attendanced in the conference, seminar
- * Part 4 is for improving and supporting sub-part 51, sub-small part 2 and mini sub-small part 1 to improve and develop an education
- * Payment for conference, seminar, and examination....this is not involved in the investment plan of government

3. 収集資料リスト

収集資料リスト

EQIP2関連資料
 教育省組織図
 教育省教員養成局組織図
 教育省一般教育局組織図
 TEADC組織図
 教育省教員養成局予算資料
 教育省教員養成局年間計画資料(2003-2004)
 TTC/TTS理数科教員リスト

以下、購入した教科書等

No.	Title
1	Algebra for upper secondary - Year 4
2	Biology for upper secondary - Year 5
3	Curriculum - Lower secondary teacher education, 11+3 system (Natural science)
4	Curriculum - Lower secondary teacher education, 11+3 system (Social science)
5	Lower secondary school curriculum
6	Primary education curriculum
7	Upper secondary education curriculum
8	Teacher training curriculum for upper secondary education teacher
9	Geography for upper secondary - Year 5
10	Handbook of pedagogic advisor for biology (Secondary school)
11	Handbook of pedagogic advisor for chemistry (Secondary school)
12	Handbook of pedagogic advisor for Math and physics (Secondary school)
13	Handbook of pedagogic advisor for physics (Secondary school)
14	Math for elementary - Year 1
15	Math for elementary - Year 2
16	Math for elementary - Year 3
17	Math for elementary - Year 4
18	Math for elementary - Year 5
19	Math for lower secondary - Year 1
20	Math for lower secondary - Year 2
21	Math for lower secondary - Year 3
22	Natural science for lower secondary - Year 1
23	Natural science for lower secondary - Year 2
24	Natural science for lower secondary - Year 3
25	Natural science for lower secondary - Year 3
26	Social science for lower secondary - Year 2
27	Social science for lower secondary - Year 3
28	Technology for lower secondary - Year 1
29	Technology for lower secondary - Year 2
30	Technology for lower secondary - Year 3
31	The world around us for elementary - Year 4
32	The world around us for elementary - Year 5
33	The world around us for elementary - Year 5